



2020年12月1日

各 位

三重県保険医協会

運動の取り組みについて

10月8日、衆議院第2議員会館で「秋の運動を上げよう！～ストップ！負担増キックオフ集会」が開催された。三重協会から鶴飼・梅村各副会長がオンラインでの視聴で参加した。

13時から衆議院第2議員会館多目的会議室を会場にオンライン配信されたものに視聴で参加した。

開会挨拶で、住江憲勇保団連会長が報告として「そもそも安倍政治とは！安倍政権継承・新自由主義では国民生活守れない！」をテーマとして退陣した安倍政権の政策を振り返った。

ミニ学習会として「コロナ禍の介護現場を通して見える社会保障の貧困」をテーマに特定非営利活動法人暮らしネット・えん 代表理事 小島美里氏が講師で報告した。

自身が運営する法人が取り組む介護事業の現状、コロナ禍での高齢者の生活と介護職を新型コロナウイルスの感染からどのように守るかなど介護事業を取り巻く現状が報告された。

その後、各地からのフロア発言が行われた。

コロナ禍での署名の取り組み方、今回の運動の取り組み計画などが各協会・医会から報告され、三重協会からは梅村副会長が消費税の増税への取り組み、消費税率の引き下げを目指す取り組みの必要性を発言した。

フロア発言終了後に配布されたピンク色のプラカード「いのちまもる」をオンライン参加者がカメラに向けて掲げ、オンライン会議の画面全面にピンク色のプラカードが広がる状況となった。

閉会挨拶で森元主税保団連副会長が秋の運動に力を入れることを確認し、国会内集会を終了した。

10月22日、東京・日比谷野外音楽堂で「#いのちまもる医療・社会保障を立て直せ！10・22総行動」が開催された。三重協会から宮崎会長、鶴飼・梅村各副会長がオンラインでの視聴で参加した。

東京・日比谷野外音楽堂で、現地参加（約330人）とWeb参加（YouTube配信：500か所で数万人の視聴）にて開催され、大きく成功した集会となった。①いのちと人権を守る医療・社会保障をつくる政治を、②医師・看護師・介護職員・保育士などの大幅増員・処遇改善、③患者・利用者の負担増ストップ！地域の病院・福祉施設を守れ、の以上3点を願って今回の行動が行われた。まず、ザ・ニューズペーパーの2人が、菅総理と安倍前総理に扮して、政策を痛快に批判、自助・共助・公助の順ではなく、公助優先と訴えた。立憲民主党・日本共産党の議員からの連帯挨拶、日本医師会会長・日本歯科医師会会長からの賛同メッセージ、各団体・現場からのリレートーク（保団連からは山田歯科医師）があり、国民の命と健康を守り、新型コロナウイルス感染への引き続き対応を行うためにも、財政的支援と低医療費政策を転換させて必要十分な医療・介護・福祉等の体制を確保することが不可欠であることを共有、上記3点のシュプレヒコールを行って終了した。

（三重県保険医協会会長・宮崎智徳）

以上